

----- (はじまり) -----

タケシ「これ持ってれば仕事ははかどるぞ。簡単に業務効率アップだな...」

アスカ「何、仕事中にウェブ見てるのよ。えっと...『これは幸運をもたらす  
鉱石で運気を引き寄せます』って、何これ。怪しさ満点ね」

タケシ「そ、そんなことはないですよ。実際に効果あって...」

アスカ「って、あんたもう買ってるじゃない！何？そのストラップは」

タケシ「へへ。だって仕事にもプライベートにも自信を持てるなら安いもの  
ですよ。デザインだって気に入ってるし」

アスカ「ふーん。そう言えば、とあるテレビ番組でダーツ投げをやらせてた  
んだけど、ある人からダーツがうまくなるという矢を貰って投げて  
たよ」

タケシ「うまくなってたでしょ！何か乗り移るんですよ。きっと」

アスカ「まさか。実際は成績が下がってたわよ。面白そうだったから手帳に  
メモってたんだけど...。ほら、これよ」

ダーツ投げの成績(100点満点)

=====

	事前試行	事後試行
No.1	47	57
No.2	57	39
No.3	56	48
No.4	48	45
No.5	53	58
No.6	43	45

タケシ「ほんとだ。平均値が50.6から48.6に下がってる...。で、でも成績の  
上がった人が3人いるじゃないですか」

アスカ「下がった人も3人いるけどね」

タケシ「で、でも、見た目にそんなに違いはないわけだから、全否定はでき  
ないんじゃない...」

アスカ「あんた、何年この仕事してるの？じゃあ、ダメ押しに統計的に見て

みげる。対応のある場合の平均値の差の検定を使うと...0.488921ね。  
ま、調べるもなく有意な差はないわね」

タケシ「アスカさん、絶対Sですよ。そこまで希望を打ち砕かなくても...。  
僕のストラップの輝きが心なしか曇ってきましたよ」

アスカ「他意はないわよ。アナリストとして冷静に検討しただけでしょ」

タケシ「そんなぁ。高かったのに、このストラップ...」

アスカ「仕方ないわね。じゃ、ちょっと勇気付けてあげるわよ。実はテレビ  
では鉄棒ぶら下がりの実験もしてて、魔法のリストバンドをはめると  
力が引き出せるってやってたわよ。データは...えっと、これね」

#### 鉄棒ぶら下がり(秒数)

	事前試行	事後試行
No.1	65	91
No.2	49	70
No.3	68	88
No.4	87	98
No.5	48	56
No.6	99	86

タケシ「あ、今度は成績が上がってる！6人中5人が時間が延びてますね」

アスカ「平均値が69.3秒から81.5秒だから、12秒伸びてるわね。ついでにダー  
ツの時と同じ検定を試みると...」

タケシ「-2.21565！余裕で有意差がありますね」

アスカ「まあ、少なくとも偶然だとは思えない結果ね」

タケシ「やっぱ、あるじゃないですか。何かのパワーがこう、じわーっと。  
これで僕のストラップも輝きを増すってもんですよ」

アスカ「もう、単なる自己暗示でしょ。テレビでは成績が向上するのはテク  
ニックの必要がないものだけって言ってたわよ。ぶら下がるのに技  
術はいらないでしょ。必要なのは根性だから」

タケシ「えーっ！それじゃ、ダーツは技術がいるからだめってワケですか」

アスカ「そう。経験や記憶、技能への習熟が必要なものはだめ。あんたの仕  
事が単純だったらいいけど、そうじゃないと思っているなら、その

ストラップの効果は間違いなく、ゼロね」

タケシ「あーあ、気分持ち上げといて、急降下ですよ。やっぱり、アスカさんって、Sじゃないんですか？ドの付く」

アスカ「...そうかもね」

タケシ「ひ、否定しないんだ...」

----- (つづく) -----

Copyright(C) 2013 rpn hacks! All rights reserved